

一日の中でも変わる発電量 — ぼくでんの人に聞いてみる

「私の家の電気はどこで作られたのでしょうか？」

そうたずねられるのはとても困ると、^{ほつかいどうでんりよく}北海道電力の人は言っていました。

電気というのは、この発電所で起こされたものがこの地区へ、と決まっているのではないのです。

十勝地方をはじめ道東へは、^{とまとうあつ}苫東厚真^{まがりよほつでんしよ}火力発電所などで起こされた電気が送られ、それに十勝の水力発電所で起こされた電気を合わせています。その中から変電所で分けられ、地域にそして家に配られます。

十勝地方にある北海道電力の水力発電所（→p57）で、1年間に起こされた電力はおよそ5億2千万キロワット^{※2}アワー（平成15年度）でした。

ちなみに、十勝で1年間に消費された電力量はおよそ17億8千万キロワットアワー（平成15年度、北海道電力[㈱]

帯広支店^{ばんぱい}販売売電力量）です。

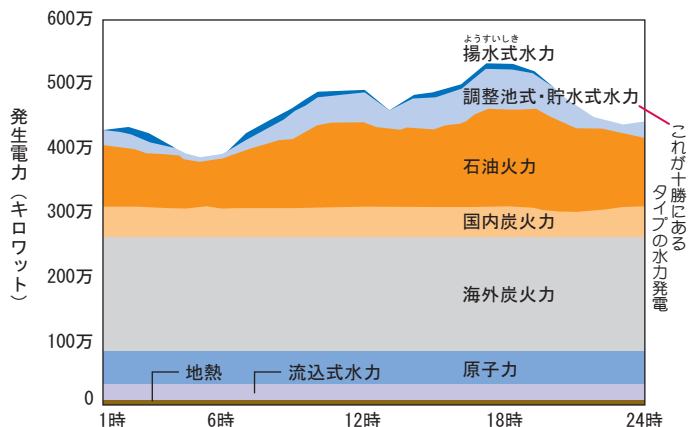
ただ、朝・昼・晩と電気の使用量は変わります。特に、夜中ごろからの電気使用量はかなり少なくなります。

発電方法の中で、石炭を使った火力発電（原子力発電も）は燃料が安いので、1日中ほぼ同じ量を発電しています。

全体の発電量の調整は、主に水力発電や石油火力発電で行っています。

全体

（協力：北海道電力[㈱]帯広支店 0155-24-5161）



北海道全体での、1日の電気の使われ方と、発電の内訳。（例は平成14年12月11日、平成15年までで発生電力が最大だった日。ピークの時で534万5千キロワット）
パンフレット「VOLTAGE 北海道電力の現況 2004-2005」(北海道電力[㈱])より。

川で行われた大きな工事

川に「しながる」ふだんの暮らし

川に「しながる」農業

川に「しながる」漁業や工業

発電所建設の殉職者 — 電源開発の人に聞いてみる

平成16年(2004)のお盆のころ、芽登第二発電所と足寄発電所との間で工事が進められていると、そこへ訪ねてきた人がいました。

昭和27年(1952)から始まった糠平ダムと水力発電所の工事では、トンネルがくずれなどの事故が起き、多くの人が亡くなりました。そのとき亡くなった人の、家族の方でした。

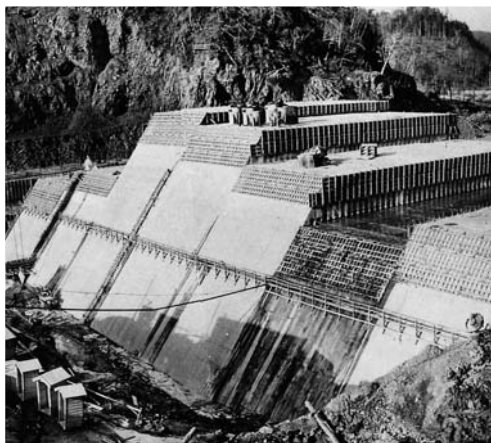
亡くなった人は岩手出身の大学生で、アルバイト作業員として働いていたそうです。卒業直前、仕事も決まっていたところでの悲劇でした。

家族の方は、電源開発の人に現場や慰霊碑に案内され、手を合わせていったそうです。

今、あたりまえのように使っている電気ですが、どんなものでも造った人

があり、場合によっては、事故などでケガを負ったり、亡くなったりした人がいたことを忘れてはなりません。

（協力：電源開発[㈱]上士幌電力所 01564-2-4101）



糠平ダム建設現場のようす。



足寄発電所へのトンネル水路工事。わき水があふれ出ている。



糠平湖を見下ろす慰霊碑。右上写真は、事故で亡くなった人の名前と出身地がぎざんである碑。

（工事中の写真は、「糠平建設所 思い出のアルバム」電源開発[㈱]糠平建設所、1956 年より）

付録

※4 電流(でんりゅう)：電気器具を使う際、電気が流れる量。単位はアンペア(A)。電流(A)=電力(W)÷電圧(V)(※5)。100Wの電球を100Vで使つと1A流れる。

※5 電圧(でんあつ)：電気を流そうとする力。単位ボルト(V)。

※6 慰霊碑(いれいひ)：あるできごとで亡(な)くなった人の霊(れい)をなぐさめ、そのことを忘れないために、できごとや名前などを石に刻んだもの。